

金浦瓦版

発行日 二〇二〇・三・五
編集・発行 金浦区自治会

エドヒガン（江戸彼岸）桜

樹齢推定二百年・樹高十五メートル・幹廻り四メートル
令和元年十二月に樹勢回復を施す（近隣では、放光院の銀杏と金毘羅神社参道東登り口のエドヒガン桜。此処は三例目）

高原に春を告げる桜で、その名の通り春の彼岸頃にそれは見事な花を咲かせる。大木故に遠くからでもよく見える。

他の桜に比べれば一週間から十日ほど早い。九州から本州まで広く分布しているが数は少ない。古くから日本の山野に自生した野生種で大木になる。樹齢が長く長寿の木と言われ、葉よりも先に花がたくさん咲くところから縁起が良いとされ、観賞用として日本人に愛されてきた桜である。最も一般的なソメイヨシノの品種改良、つまりクローンの母体となっているのがエドヒガン桜である。

花は薄紅色で花弁は五枚で一重。花弁は長さ十〜十二ミリ、萼（がく）の付け根が丸く膨らむのは特徴のひとつ。花の後（あと）には六月末にかけてサクランボができるが、酸味が強く食用には適さない。葉は枝から互い違いに付き、先端は尖（とが）り縁にはギザギザがある。

春告げる花あり 高原の要所石仏辺りに エドヒガン

希少なエドヒガン桜が、夜久野高原には点在している。高原の謎のひとつ、それは「エドヒガン桜の傍に石仏が見られる」場所が多いということである。石仏とは、高原と宝山一帯にある観音

立像と弘法大師座像のことである。江戸時代に、四国八十八ヶ所霊場を移した「夜久野高原八十八ヶ所石仏めぐり」が創設されている。石仏とエドヒガン桜、どちらが先にあつたのか。（但し春限定）まずは現場を見てご一考されたい。ここから三百メートルほど東にある八十八番、更に東方向の八十六番、八十七番。西方向の金刀比羅山頂にある三番、市道沿いに見られる五番、応仁の乱ゆかりの内藤塚六・七・八番、牧場跡の六十九番等。他にも高原に咲き誇る各種の桜をお楽しみください。 令和元年 三月

朝来市山東町金浦区自治会

「八十八ヶ所石仏めぐり」の案内パンフレットは、茶堂（放光院）縁側か夜久野温泉観光案内所でお求めください。建物に入ると音楽が流れてくる、さわやかトイレ横の大型案内版もご利用ください。



上記の桜の写真は、昨年撮影したものです。この度の樹勢回復による効果を期待しています。案内看板は、令和2年3月に設置したものです。その看板の案内は前述の通りです。もう春がそこまで近づいています。3月下旬から4月上旬にご注目ください。場所は放光院の東方向約300mです。